第９章　「コロナ騒ぎ」と「ウクライナ紛争」を裏で動かしていた国防総省（ペンタゴン）

サーシャ・ラティポワ女史
情報公開法を活用して、国防総省の暗躍を暴露した！

1

『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』全4巻を読んだ2人の友人が、加賀から私を訪ねてきました。そのときに、インドの女性作家モハンティ三智江さん（福井県出身、今は一時金沢に在住）から上記4巻の「読後感想レター」をいただいていたので、そのコピーも一緒に、その友人たちにプレゼントしました。

というのは、奇遇にもその2人の友人が拙宅を訪ねてくる前々日に、三智江さんも金沢からも私を訪ねて岐阜に来ていたからです。とは言っても、私と会うのが主目的ではなく、美濃太田に住む元級友のお見舞いが主目的でしたが。

2

しかし考えてみると、その三智江さんからいただいた上記4巻の「読後レター」とはどのような内容のものか、をいっさい紹介していなかったことに気づきました。

そこでメールを書き、三智江さんからいただいた拙著の書評を皆さんに紹介してもよいかどうか訊ねました。幸いにも彼女から次のような暖かい返事が戻ってきました。

「私の拙い感想文をブログに転載なさりたいとのこと、どこまでお役にたつか分かりませんが、どうぞお使いください。名前も出していただいて構いません。私の方でも、微力ながら御本『黒い太縄』の売上げに貢献できるよう、友人知人に宣伝させていただきますね」

3

そこで、三智江さんからいただいた拙著への書評メールを、さっそく以下で紹介したいと思います。

しかし、その前に、三智江さんが美濃太田の旧友をお見舞いした後の報告が、私と歓談した翌日、次のように届いていることを、まず紹介しておく必要があるかも知れません。

「八日に美濃太田で50年ぶりに再会した元級友はステージ４の大腸ガンなのですが、ワクチンを打ったあと、腫瘍が破裂し、肺と肝臓に転移したと言っていました。幸いにも今の治療法があっているようで、元気そうで安心しましたが」

今まで政府も大手メディアも「ワクチンは安全です」と大宣伝をしてきましたが、最近これは全くの大嘘であったことが次々と暴かれつつあります。

つい先日、京大の福島雅典名誉教授が「ワクチン行政と科学の悪用」を告発し、それが英語字幕付きのビデオで世界に発信されていることを知り、驚喜しましたが、相変わらず大手メディアは知らぬふりを続けています。

＊Video : Japanese Oncology Professor Fukushima Condemns mRNA Vaccines as “Evil Practices of Science”（ビデオ：日本の腫瘍学福島教授、mRNA ワクチンを〝科学の悪行〟と非難）
https://maksmd.substack.com/p/video-japanese-oncologist-professor?publication_id=1385328&post_id=144226387&r=1ifz5&triedRedirect=true May 03, 2024 By Aussie17

4

しかしワクチン被害よりも、もっと知られていないのは、「コロナ騒ぎ」の仕掛け人がペンタゴン（国防総省）だったということです。

「コロナ騒ぎ」をアメリカ国防総省が裏で指揮命令してきたことは、製薬業界で長年働いてきたサーシャ・ラティポワ女史が、ＦＯＩＡ（情報公開法）を活用して明らかにしてくれました。

春日井市での私の講演は、そのことを中心に話したのですが、それを一刻も早く本にして出版して欲しいとの要求が出てきて、『コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄』という4巻本になりました。

が、ホテルのロビーで三智江さんと話していたとき、「コロナとウクライナをむすぶ黒い太縄」という題名では、その「黒い太縄」がペンタゴン（国防総省）だということが読者にはすぐ伝わりにくいと、彼女は思わず本音を漏らしてくれました。

拙著の出版予告がブログで紹介されたとき、上記の題名が「仮題」となっていたのに、出版されたときも同じ題名だったので「あれ?」と思ったというのです。

確かに言われてみればそのとおりで、そのことを集中的に扱った第3巻ですら、その題目が「闘うイベルメクチンの飲み方・使い方、コロナもワクチンも国防総省が開発した生物兵器」となっていて、「国防

総省が開発した生物兵器」が副題扱いになっているのです。

今にして思えば、これを第3巻どころか4巻本全体の前面に掲げるべきだったと後悔しています。

ウクライナ問題は、ゼレンスキー大統領を道具に使って、ペンタゴン（国防総省）がロシアに仕掛けた戦争であることは、時間が経つにつれて自然と明らかになりつつありますが、「コロナ騒ぎ」の裏にもペンタゴンが潜んでいたことは、よほど説明されないと分かりません。

それを集中的に説明したのが第3巻で、コロナウイルスもアメリカ内外の生物兵器研究所で開発された可能性が極めて強いことを詳説しました。

いま、裏でＣＩＡと国防総省（ペンタゴン）が支えているウクライナ軍が、正規戦で敗北しテロ活動でしか活路を開けなくなっていますから、生物兵器を使ってロシアの責任にする危険性も大きくなってきています。だから、このことを指摘しておくことはとくに重要だと思いました。

5

こんな調子で書いていると、いつまで経っても肝心の「三智江さんの読後レター」にたどり着きません。そこで以下ではすぐに「読後の感想レター」に移らせていただきます。

ただし、この手紙の冒頭に「息子のこと、ありがとうございます」「また拙作に目を通していただいたようで、感謝申し上げます」とありますので、そのことについて一言だけ。

というのは、三智江さんは実父を描いた小説『車の荒木鬼』で有名になった作家で、最近まで銀座新聞ニュースで短編を書かれていました。また息子さんは、インドでは有名なラッパー（芸名Big Deal）で、日本での全国公演旅行を終えて、つい先日、インドに帰国されたばかりです。

寺島先生、ご無沙汰いたしております。

息子のこと、ありがとうございます。また拙作に目を通していただいたようで、感謝申し上げます。

息子が去って、やっと一段落しましたので、大変遅ればせながらもご高著を紐解かせていただいております。

まだ全4巻の半分しか拝読しておりませんが、前著（『コロナ騒ぎ謎解き物語』3巻、『ウクライナ問題の正体』3巻）の続編的要素がありますので、入っていきやすかったです。

第1巻は、改めてあのコロナ騒動がなんだったのかを振り返り、考えさせる機会をさずけてくださる好著、渦中にいるときはわからなかったさまざまなものが露呈し、やはりそうだったんだと再認識させられた次第です。

異国インドに住んでいたこともあって大変だったのですが、過ぎてしまえば、不思議な一時期だったと思います。冷静でなく、踊らされていたというか、コロナ前に伴侶を亡くした衝撃も加わり、完全にドラマに飲み込まれていました。

しかし、得がたい体験だったと思います。

危機意識でエゴがむき出しになり、身内とも葛藤がありました。みなが正常でなく、パニ食ってました。今になれば、不謹慎だけど、面白かったと言えるんですが。私はきっと、これを体験したくて、この地球、争いが絶えない原始的な星に産まれて来たのでしょう。

21世紀の現代でパンデミックを体験する人は何か、どこかしら特別なのでしょう。だから寺島先生にも、真実をお伝えになるお役目がおありになるのでしょう。

それにしても、あれほど自国を歯に衣着せず批判していたチョムスキー博士の変身?、現実にお会いになられた先生は、どう思われますか。

あと、2回接種歴のある表紙デザイナーの高垣さんのワクチン被害がどの程度かネットで究明する次の箇所も興味深かったです。

＊殺人ワクチン、その危険度はそれぞれ違う―「私のワクチンはどれほど悪いか」を調べる方法（第1巻第4章）

ワクチンには偽も混じっているとは思っていましたが、インドの親族を見ても、プラセボにあたったらよいなと。ただし、6回打った身内が2人コロナ感染、1人はゴルフ場で倒れ、救急車で運ばれました。危うく一命を取り留め、今はピンピンしてますが、ワクチンかなと想像しています。

夫の姉は心臓に穴が空いていたのに、甥が強制接種させ、それまで元気だったのが、容態急変、死に至りました。ワクチンのせいだったと今でも思っています。甥には最初から、お母さんには絶対ワクチン打たせちゃダメだよと釘をさしていたのに。

周り（日本の親族）でもワクチン接種者が次々コロナに感染しています。私は非接種者の未感染、みなに不思議がられています。インド人はせいぜい2回ですが、日本人は5、6回は普通、後年出てくるんじゃないかと恐ろしいです。

身内はみな接種者なので、本音は言えません。せいぜい、打ちすぎると、感染しやすくなるんだよ、くらい。ワクチンのせいで倒れたんじゃないなんて言うと、反発されるだけ。偽であってほしいと祈るばかりです。

コロナ騒ぎとは一体、なんだったのかをご高著で振り返る機会を与えていただき、感謝しております。ありがとうございます。改めてじっくり考え込まされました。

昨年、特急便でお送りいただきながら、ここまで延び延びになってしまったこと、この文面を借りて深くお詫び申し上げます。全巻読了までに今少しお時間をくださるようお願いいたします。

老いてますます盛ん、意気軒高、精力的な活動に勤しまれる先生のご活躍並びにご健筆を祈念申し上げます。硬軟、多ジャンルにわたる書き物、これからも楽しみにしております。

季節の変わり目、奥さま共々くれぐれもご自愛くださいませ。

長くなりました。乱文の程は平にご容赦ください。

モハンティ三智江拝